

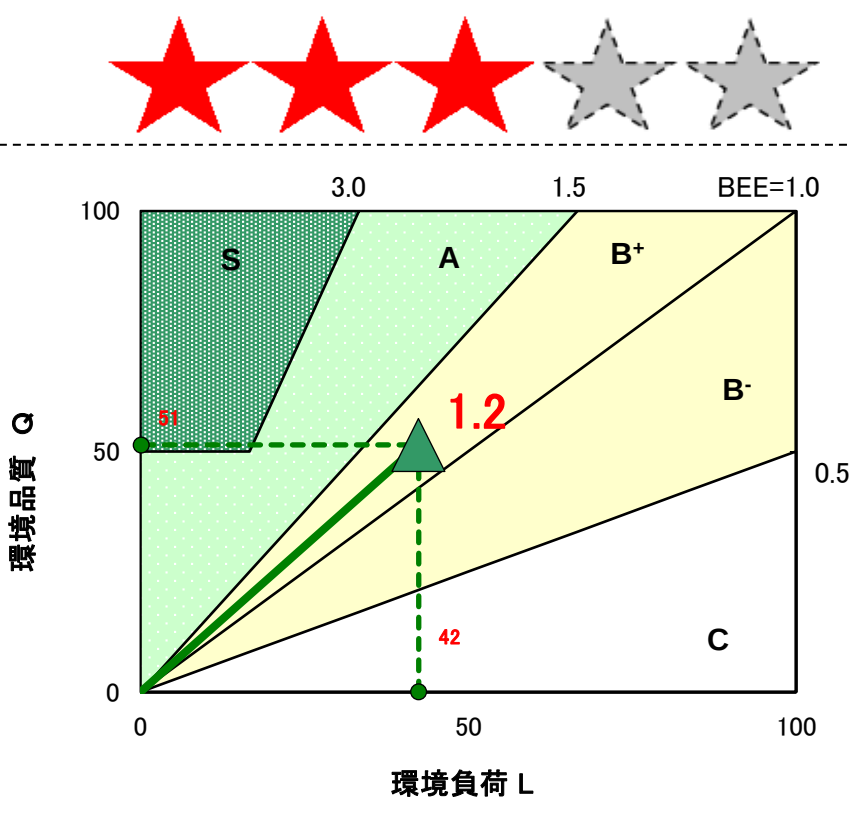
CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	(仮称)サンパーク長嶺南 新築工事	階数	地上11F	
建設地	熊本県熊本市東区長嶺南7丁目154	構造	RC造	
用途地域	商業地域	平均居住人員	332 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2020年9月 予定	評価の実施日	2018年12月1日	
敷地面積	5,116 m ²	作成者		
建築面積	1,040 m ²	確認日		
延床面積	6,747 m ²	確認者		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

★★★★★



BEE = 1.2

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

80%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

75

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

82.0

62.5

75.0

73.5

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	   
80点以上100点未満	  
60点以上80点未満	  
40点以上60点未満	 
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

Page : 1/6

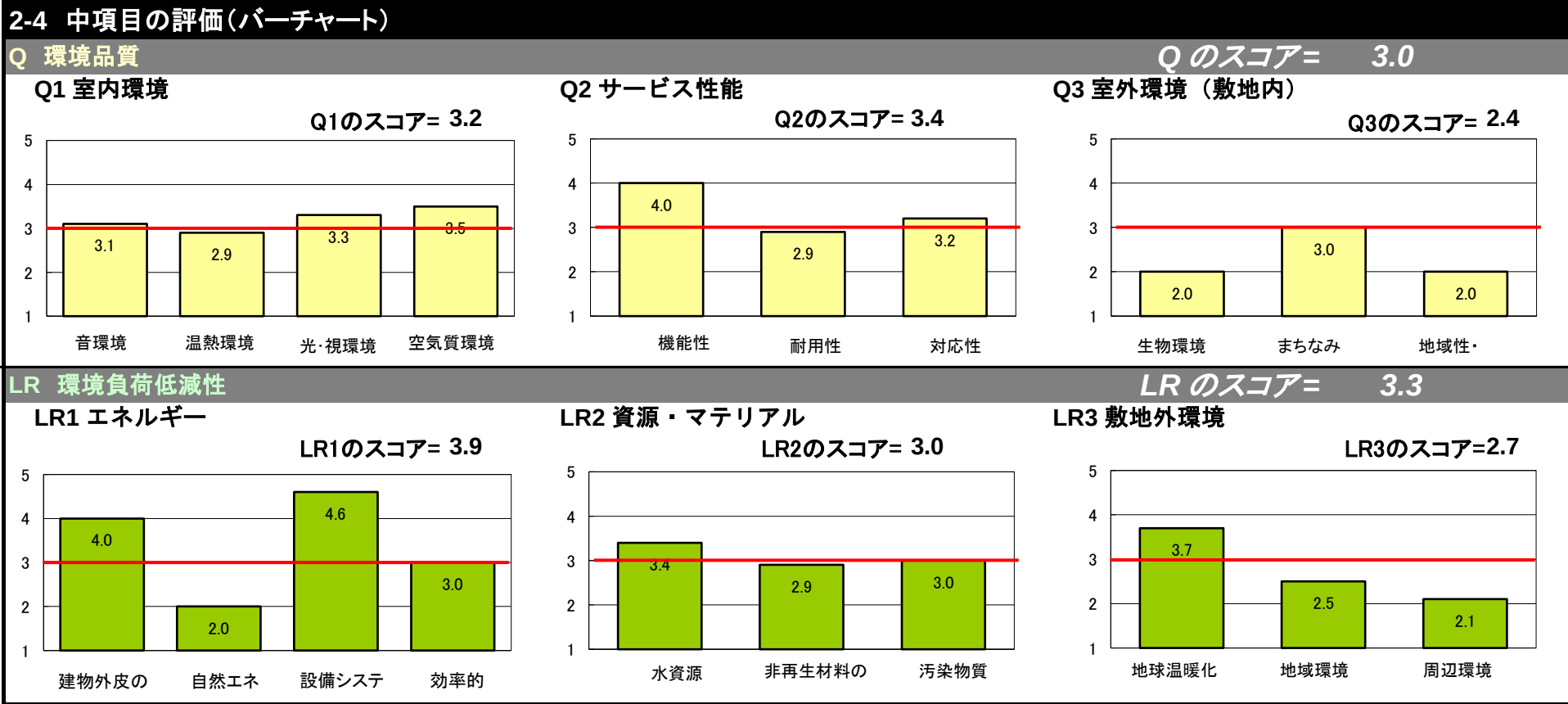
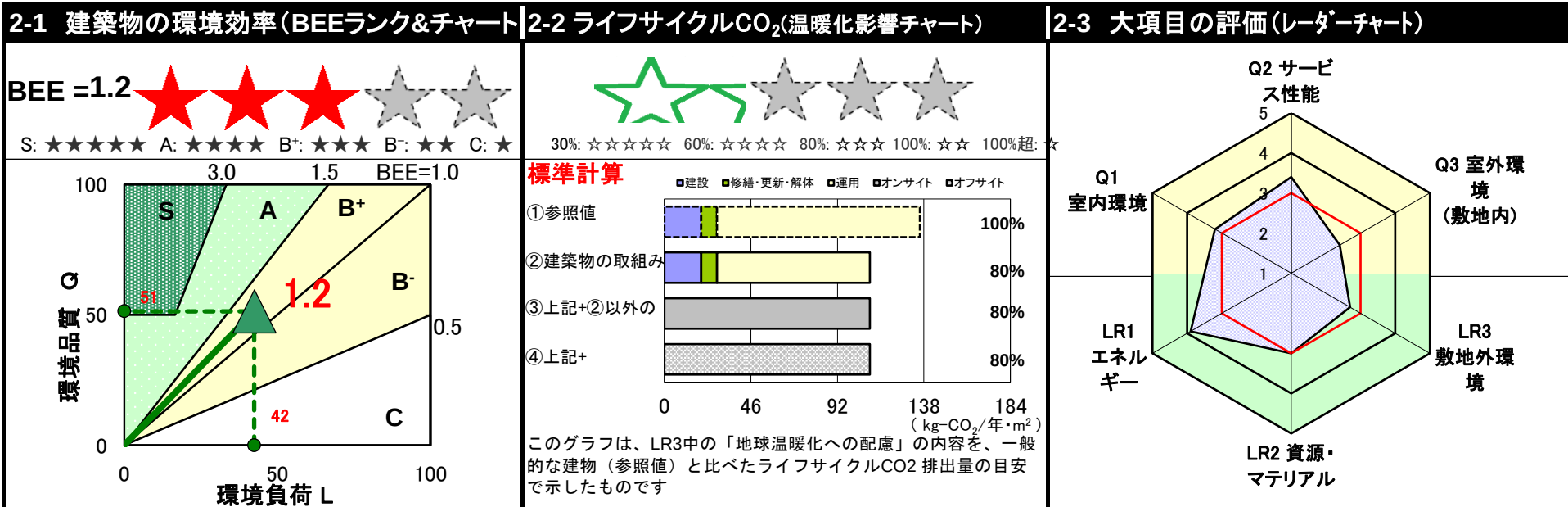
Sheet : 1/5

CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

評価結果

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)サンパーク長嶺南 新築工事	階数		
建設地	熊本県熊本市東区長嶺南7丁目154	地上11F		
用途地域	商業地域	構造		
地域区分	6地域	平均居住人員		
建物用途	集合住宅	年間使用時間		
竣工年	2020年9月 予定	評価の段階		
敷地面積	5,116 m ²	評価の実施日		
建築面積	1,040 m ²	作成者		
延床面積	6,747 m ²	確認日		
		確認者		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)サンパーク長嶺南 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄						全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境					0.40		-	3.2
1 音環境				3.0	0.15	3.2	1.00	3.1
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音				3.0	0.50	3.4	0.50	
1	開口部遮音性能			3.0	1.00	3.0	0.30	
2	界壁遮音性能			-	-	3.0	0.30	
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	4.0	0.20	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	4.0	0.20		
1.3 吸音				-	-	-	-	
2 温熱環境				1.6	0.35	3.1	1.00	2.9
2.1 室温制御		日本住宅性能表示基準、断熱等性能等級4		2.2	0.50	4.0	0.71	
1	室温			3.0	0.63	-	-	
2	外皮性能			1.0	0.38	4.0	1.00	
3	ゾーン別制御性			-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.29	
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				2.3	0.25	3.5	1.00	3.3
3.1 昼光利用		2.7%～9.9%		1.8	0.30	4.0	0.50	
1	昼光率			1.0	0.60	5.0	0.50	
2	方位別開口			-	-	3.0	0.30	
3	昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				2.0	0.30	3.0	0.50	
	1	昼光制御	2.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				3.0	0.25	3.6	1.00	3.5
4.1 発生源対策		F☆☆☆☆の建材を使用		3.0	0.60	4.0	0.63	
1	化学汚染物質			3.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.40	3.0	0.38	
1	換気量			3.0	0.50	3.0	0.33	
2	自然換気性能			-	-	3.0	0.33	
	3	取り入れ外気への配慮	3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				-	-	-	-	
	1	CO ₂ の監視	-	-	-	-		
	2	喫煙の制御	-	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4
1 機能性				2.2	0.40	4.4	1.00	4.0
1.1 機能性・使いやすさ		100Mbitクラスのブロードバンド利用可能		3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性			-	-	-	-	
2	高度情報通信設備対応			-	-	5.0	1.00	
3	バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	3.5	0.40	
	1	広さ感・景観	-	-	4.0	0.50		
	2	リフレッシュスペース	-	-	-	-		
	3	内装計画	1.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理				2.5	0.30	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計	3.0	0.50	-	-		
	2	維持管理用機能の確保	2.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	2.0	0.20	-	-			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	3.0	0.10	-	-			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.10	-	-			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:硬質塩化ビニール管(B) 排水:耐火二層管(B) E:不使用	5.0	0.20	-	-		
6	主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備	3.0	0.20	-	-		
	2	給排水・衛生設備	2.0	0.20	-	-		
	3	電気設備	3.0	0.20	-	-		
	4	機械・配管支持方法	3.0	0.20	-	-		
	5	通信・情報設備	3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性				2.8	0.30	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			階高2.92m	-	-	3.6	0.50	
1	階高のゆとり	-		-	4.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ	-		-	3.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり				-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				2.8	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0		0.20	-	-		
2	給排水管の更新性	2.0		0.20	-	-		
3	電気配線の更新性	3.0		0.10	-	-		
4	通信配線の更新性	3.0		0.10	-	-		
5	設備機器の更新性	3.0		0.20	-	-		
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.4	
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.3	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9	
1 建物外皮の熱負荷抑制			日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4に相	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.87	4.6	0.50	-	-	4.6
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	
集合住宅の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0	
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			節水型便器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1			雨水利用システム導入の有無	3.0	1.00	-	-	
2			雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.60	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			居室床下地にパーティクルボードを使用	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み				3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
1			消火剤	-	-	-	-	
2			発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
3			冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.7	
1 地球温暖化への配慮			標準計算による	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
1			雨水排水負荷低減	-	-	-	-	
2			汚水処理負荷抑制	3.0	0.33	-	-	
3			交通負荷抑制	3.0	0.33	-	-	
4			廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.1	0.33	-	-	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1			騒音	3.0	1.00	-	-	
2			振動	-	-	-	-	
3			悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				1.6	0.40	-	-	
1			風害の抑制	1.0	0.70	-	-	
2			砂塵の抑制	1.0	-	-	-	
3			日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				1.6	0.20	-	-	
1			屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	1.0	0.70	-	-	
2			屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

空気住環境、機能的な空間作り、敷地内環境、省エネルギー、敷地外環境への配慮にそれぞれ取り組んでおり、低炭素社会の実現に努めている。

Q1 室内環境

全戸サッシは複層ガラスを使用、外壁は断熱材を吹付けた防露壁とした。またシックハウス対策はF☆☆☆☆材料を採用した。

Q2 サービス性能

共用廊下・住戸内床は段差をなくし、バリアフリーに対処した。

Q3 室外環境（敷地内）

周辺に配慮した建物高さ、配置を行っている。また敷地内の緑化に配慮した。

LR1 エネルギー

共用部・住戸内とも主要な照明はLED照明を採用した。また給湯器を潜熱回収型を採用することで省エネルギーに配慮した。

LR2 資源・マテリアル

流し台等の水栓は節水コマ等を採用し、便器も節水型とし水資源に配慮した。

LR3 敷地外環境

隣接建物よりセットバックさせて建物配置することによって、圧迫感を与えないようにした。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

(仮称)サンパーク長嶺南 新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		75
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				82	0.40	32.80
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	2.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.6	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				73.5	0.20	14.70
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数